

JAが取り組む次世代の農業支援

JA埼玉ひびきのでは地元特産品に触れて体感してもらい学生には体験を発表してもらう農業体験を行っています。



小さなうちから農業体験を通じ農業への関心を

地域社会の貢献と地元農業の発展のため、田植えや農産物の収穫体験を行っています。農業に触れることにより普段から口にしている。

白米や農産物がどのようにして作られているのか、作ることがどれだけ大変か、手ずから作った事による喜びを感じてもらうことで食への意識を持ってもらうことを一つの目的としています。



農業体験を通じ将来的に農業関係者として地域に根付いた仕事を期待

新規就農者・後継者・法人としての農業従事者の育成と確保

継続的安定的な地域農業の発展

後継者不足を解消する農業法人としての取り組み

会社員をやめ祖父の畑で就農、一からのスタートではあったが徐々に機会を増やし畑

の借入を増やして事業を拡大。あるとき出荷先から後継者がおらず畑の管理が大変であるという話を聞く。

調べると農家の高齢化や担い手不足という現実を知り危機感を肌で感じ取ると同時に法人としての事業化に可能性を感じ起業。株式会社として新たにスタートを切る。

事務所設立や工場設備など多額の資金が必要となったが日本政策金融公庫、JAから融資をしてもらい環境を整えた。

耕作地は地元農家だけではなく隣町、さらにその隣町と範囲を広めており自分たちが作っている作物がより良いものになりブランド化して地域農業に貢献できればいいと思っている。

農業組合法人こむぎ代表

岩崎 優也 さま

事業内容

農産物の生産と販売・農業の受託・酒類販売

Field Notes

新規就農時からお付き合いをさせていただきました。法人化の話聞いた時は驚きでしたが営農意識の高さの表れとも思えたので納得感もありました。農協としても資金面以外のことで協力できたらいいなと考えております。

埼玉ひびきの農業協同組合
信用共済部 資金運用課
係長 南 翔大

